



第16回 ローマ帝国の分裂

1 混乱の收拾とキリスト教

- ・軍人皇帝時代の混乱により、皇帝権力はすっかり弱体化していた。
→混乱を収め、ふたたび皇帝権の強化をはかる皇帝が登場した。



ディオクレティアヌス
無事に引退できた
久しぶりの皇帝と
なった。晩年はキ
ャベツ作りにはま
っていた。

- ◆ () (在位 284~305 年)
 - ・284 年、強大な軍事力によって皇帝となり、混乱を收拾した。
 - ・広いローマ帝国を効率よく治めるため、領土を四分して東西の正帝と副帝の 4 人で統治する () を行った。
 - ・皇帝権を強化するため、自分を神に等しい存在として皇帝崇拝を強制した。
※この統治体制を () という。
→それに従わない () に対して、大迫害を行った。



コンスタンティヌス
首が太いため、あ
だ名は「牛」であ
った。どこまで本
気でキリスト教を
信じていたのかは、
謎である。

- ◆ () (在位 306~337 年)
 - ・大迫害にもかかわらず、キリスト教徒の活動はいつこうに減らなかった。
→逆にキリスト教の神によって皇帝の権力を高めようと考えた。
→313 年、() を出してキリスト教を公認した。
→また教義を統一させるため、325 年、() を開いた。
 - ・330 年、東西交易の拠点であるビザンティウムを () と改称して、ローマ帝国の新しい都の基礎を築いた。
※現在のトルコの () 。
 - ・巨大な官僚体制によって、ドミナトゥスを強化していった。
 - ・また質の良いソリドゥス金貨の発行や、() など
の政策で、経済をある程度は回復させた。



ソリドゥス金貨

「質が良い」とは、純金に近いという意味である。地中海世界ではどこにいても使えたという。私もさすがに数枚しか持っていない。



首都移転の記念柱



大城壁

現在でもイスタンブールには、コンスタンティヌスが建てた首都移転の記念柱が立っている。また東ローマ帝国時代の城壁もかなり残されている。



ユリアヌス
わずか即位3年
で、ササン朝と
の戦いの際に戦
死してしまった。

- ◆ () (在位 361~363 年)
 - ・() を復活させ、キリスト教徒から「背教者」と呼ばれた。
→しかしユリアヌスの死後にキリスト教が復活した。
※太陽神ミトラを信仰するミトラ教や、マニ教、イシス教などの宗教は、キリスト教の進出によって徐々に衰退していった。

2 ローマ帝国の分裂

・()年、北方のゲルマン人が集団でローマ帝国内に移動を開始した。
 →ローマ帝国の混乱と崩壊を決定的にする()が始まった。

<ゲルマン人とは?>

- ・ゲルマン人はローマの北方にいた民族で、しばしばローマ帝国と戦っていた。
 ※ただしこの大移動以前から、ローマ帝国に仕えるゲルマン人もいたらしい。
- ・この民族移動は、中央アジアの騎馬民族である()の一派とされる()が、東からゲルマン人を圧迫したために起こったとされる。
- ・また、4世紀から5世紀に気候が寒冷化したことが背景にあると考えられる。



◆ テオドシウス
 大病をわずらったことが、キリスト教に熱心になるきっかけとなった。

- ◆ () (在位 379~395年)
- ・380年、キリスト教を国教とする勅令を出した。
- ・392年、異教の信仰を禁止し、()が進められた。
- ・()年、ローマ帝国を東西に分割して、ふたりの息子に譲った。
 →ローマ帝国は、()と()に分裂し、二度と統一されなかった。
 →西ローマ帝国は、476年、ゲルマン人の傭兵隊長()に滅ぼされ、わずか80年で消滅した。

